



全校研究会を開催 令和5年度の研究方針決定

令和5年度の研究が始まりました。昨年度に引き続き研究主題は「『児童生徒が学びをつなぐ』教育課程の編成」で2年計画のまとめの年となります。令和4年度の研究の成果を生かしつつ、2年目は「児童生徒が学びをつなぐ」ために教師はどのようなしかけができるかについてジャムボードを使い、学部ごとにアイデアを出し合いました。今回は、ジャムボードに出されたアイデアの内容を紹介します。

「児童生徒が学びをつなぐ」ために教師ができるしかけとは 小学部

子どもの好きを見つける 未来へのスケッチの活用

好きなことも①1人でできること②小さな集団で出来ること③大きな集団で出来ることと、バージョンや規模を大きくしていく

自分の好きなことと苦手なことを、自分(児童自身)が分かる、理解する。

原点は好きを見つける。小低は遊びの指導

子どもの思いと願いをつかむ→未来へのスケッチの活用

単元のつながりや学年のつながりを意識

生単が断片的にならないように生単や用語・算数、日指などの学習段階表(ゆりバージョン)を作成する。

生単と各教科とのつながり(内容、支援の仕方、実態、指導時期)

単元配列表の作成

単元一覧の中でリンクさせていくと教科と合わせた指導のつながりが意識しやすくなる。

合同学習の年間指導計画の活用

近隣学年とつながる学習や交流(1つ上の学年をモデルとする、1つ下の学年のモデルになる。)

教師が仕掛けない限りつながりを意識するのは難しい。

授業の中で課題解決する力を付けられることが高学年の目指していくところ

家庭との連携

学校で学習したことを宿題を出すことで、保護者にも現状を知ってもらい、家庭でも同じ対応ができるようにする(宿題や約束を共有)

宿泊学習や校外学習などの経験と家庭の生活を繋ぐ授業づくり

日々の生活に即した授業づくり、家庭との連携

教師のしかけアイデア

- ・小低の遊びの指導から児童の好きを見つけたい
- ・未来へのスケッチを活用したい
- ・教師がしかけを作ることのでつながりを意識できる
- ・他学年、他学部、家庭との連携を大切にしたい

「児童生徒が学びをつなぐ」ために教師ができるしかけとは 中学部

生徒の変容を見取り、つながった瞬間を見逃さない

生徒の変容を見とる

つながった瞬間を見とる

生徒が気づくように返す

学びの目的を明確にし、生徒にも分かりやすく伝える

ポイントを押さえた分かりやすい板書

興味をもたせられる教材、教師の仕掛け

まずはわかりやすい授業を追求することか、将来働いた時の支援の方法につながるのでは

視覚的支援

年間指導計画の活用

年計にも他教科とのつながりがわかるように記入

絵や写真を入れるのは良い!

家庭との情報共有

家庭生活との課題の共有

連絡帳の様子を伝える

振り返り、目標設定、学びの履歴を残す

他者評価からの的確な自己評価

適切な自己評価(他者評価も活用)

即時評価を意識する

自己理解のための時間を定期的に(SSTとか)

振り返りや評価から次の目標を一緒に考える

前時の振り返りや本時のめあてを確認する

達成感を得られる目標設定

学びの履歴のファイリング

T1とT2以下のふりがえりの時の役割分担

EX T2以下は付箋に評価を書いて生徒に渡す等

振り返りシートの積み重ね

教師のしかけアイデア

- ・年間指導計画に他教科とのつながりを記入する
- ・学びの目的を明確にし、分かりやすい授業、板書をする
- ・振り返り(自己評価・他者評価)と適切な目標設定をする
- ・達成感を得られる目標設定、振り返りシートの積み重ね

「児童生徒が学びをつなぐ」ために教師ができるしかけとは 高等部

卒業後を見据える

他学年との学習や交流、実体験を重視

中では態度面の向上を目指して作業。高では職業科の学習で知識の獲得

学部内で繋ぐ(上級生が下級生に教える機会を設ける。アウトプットすることで、自分も確認)

高から社会への繋がり実習を軸に

他学年との交流。後輩に教えたり、先輩からアドバイスをもらったり。

見てわかる視覚的教材支援を使う

前に学習したことの掘り下げ・バージョンアップ

先輩や卒業生からの実体験報告へ先輩と語る会の場の設定

実体験を活用した授業展開

緻密で正確な実態把握

実態に合ったグループング

学部ベースで各学部から意見をもらう

年間指導計画や未来へのスケッチの活用

未来へのスケッチ(支援計画と指導計画をリンクさせた目標設定の振り返りを日々の生活でこまめに行う)

学習シート、ワークシートの蓄積

普段の生活(卒後の社会生活)に活かせる内容を扱う。

学びの見える化

生徒が見える年間の学習計画(年計の見える化)

学びの履歴を残す

生徒のやりたいことを聞き出し、それを年計に組み込む。

生徒主体の学びのつながり

家庭や寄宿舎との連携

家庭との情報共有と連携

含や家庭との連携

寄宿舎との連携で必然的に取組めるようにする

教師のしかけアイデア

- ・卒業後を見据え、実体験を重視した授業展開をする
- ・後輩に教える、先輩からアドバイスをもらう経験をする
- ・生徒が見える年間の学習指導計画や、学びの履歴を残す
- ・家庭、寄宿舎と情報を共有する

